

# なきごえ



1983

12

大阪市  
天王寺動物園協会



廣崎 芳次

水族館で水の中の動物たちと付き合い合うようになって、かれこれ30年の歳月を数えるようになりました。

よく考えてみると、いろいろのことがありましたが、あつという間に30

年間のできごとが通りすぎてしまった感じで、まだまだやらなければならない仕事が多すぎます。これから30年も50年もかかっても仕事は完成しないと、後継者にまかせるしかありませんが、もう一度生まれてくることができるとしたら、また一飼育係から勤務できたら最高の幸せだと思っています。

なぜ水族館がそんなに魅力にとんだ職場なのであろうかと自問してみると、まず第一に動物園と同じく動物たちの天寿を全うさせるために、ベストをつくすことができるところだからであろうと思います。

養魚場や牧場などですと、動物を飼育する点では動物園や水族館と同じですが、目的が食用であるため一定の大きさになると市場へ出荷しなければなりません。また産業的に扱う場合には商品価値の高いものを重要視しなければなりません。

ところが水族館や動物園の動物たちは、どんなに年老いても長生きをしているということで、世間から祝福され、担当者は自慢することができます。

また魚市場では、経済的に重要視されている魚も全く無視されている魚も、水族館の水槽の中では、同じように扱うことができます。

江ノ島水族館には、あと半年で満30年の飼育生存記録を達成する魚や海亀がいます。その一つである

\*\*\*\*\*

なきごえ12月号もくじ

動物と私 ..... 2  
 “カバの赤ちゃんお目見え！” ..... 3  
 動物園グラフ・動物園日記 ..... 4-5  
 天王寺の歴史をさぐる ④ ..... 6-7  
 天王寺の動物たち ③ ..... 8-9  
 動物なんでも相談室 ⑤ ..... 10  
 動物園ニュース ..... 11

\*\*\*\*\*

ソウギョは30年間水槽の中を元気で泳いできましたが、飼いはじめた最初の1年2カ月間は、えさを全く食べなかったものですから、いろいろと気を使い苦労しました。海亀たちも体内の脂肪が壊疽をおこす爬虫類特有の脂肪壊疽になやまされました。これも今では食餌療法によって、発病するようなことはなくなり昔話になりました。30年間苦楽を共にしてきたこのようなかまたちをこれからもさらに長生きさせるように努力することができるということは幸せなことです。また繁殖もいろいろと試みてきましたが、特にイルカ類は今までに87頭の子がプール内で生まれました。

幸せなこととしてつぎにあげられることは、多種類の動物を飼育できることです。動物園の動物の種類よりも多く、系統分類学上のあらゆる分野の動物を手がけることができるのは、水族館の特権です。クラゲやサンゴといった腔腸動物から、クジラ、イルカ、アシカなどの哺乳類にいたる多種多様の動物たちを扱うことができます。

動物園や水族館は、飼育動物を長生きさせ、繁殖させるための技術にすぐれていなければなりません。

このためには、広範囲にわたっての基礎的な研究活動も飼育係の当然の仕事として認められます。ですから飼育動物はすべて研究材料でもあります。このこともすばらしいことです。

動物園や水族館は、生きた動物たちの形態や生態を、観客たちが楽しみながら学ぶことができるようにいろいろと工夫し努力することも仕事として認められています。

一人だけで動物たちのよさを楽しむのではなく、観客たちともその喜びを分かちあえ、生きものたちの野生下での保護についても、訴えることができるこんな素敵な職場はおそらく他には決してないと信じております。  
 (江ノ島水族館長)

表紙の写真説明

“フラミンゴ”

フラミンゴは、世界で6種が知られています。当園には最大種で鮮やかな紅色を呈するベニイロフラミンゴから最小種のコガタフラミンゴまで4種を展示しています。くちばしが実に特徴的でふりのように用いて水生の植物や動物をすくいとります (撮影：森本委利)



“カバの赤ちゃん、お目見え！”

10月10日、カバの赤ちゃんが生まれました。母親のナツコはこれが4度目のおめでただけに、育児もなれたものです。この寒空にもめげず、昼間は屋外のプールで一般公開中です。

(撮影：宮下 実)

# 動物園グラフ

## 「ボク達動物大使」

— 中国からのお客様 —

昭和49年からの中国との動物交流ははや10年目を迎えることになりました。いただいた貴重な動物達は市民にとってもかわいがられています。今回はこれらの親善動物大使を特集してみました。

(写真：なきごえ編集部)

(構成：大野尊信)



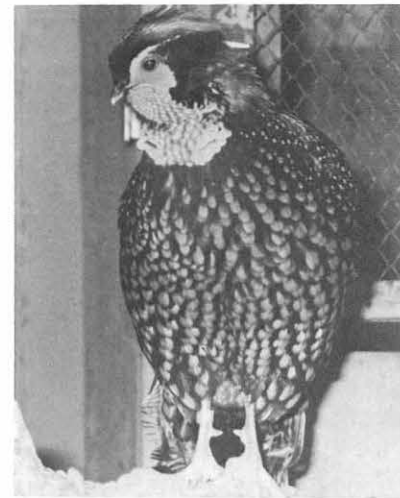
タンチョウ (メス1羽) 北京動物園  
昭和49年8月入園 (写真手前がメス)  
中国東北部に生息  
昭和51年以来7年連続13羽のヒナが誕生しています。



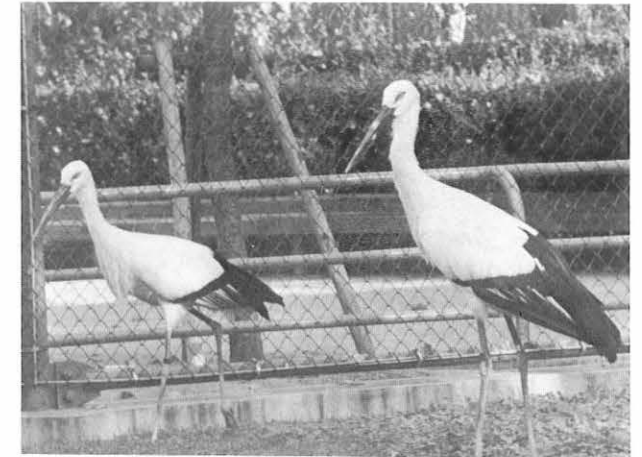
マナヅル (オス1羽、メス1羽) 上海動物園  
昭和49年8月入園  
中国東北部が繁殖地  
昭和56年から産卵していますが、まだフ化にはいたっていません。



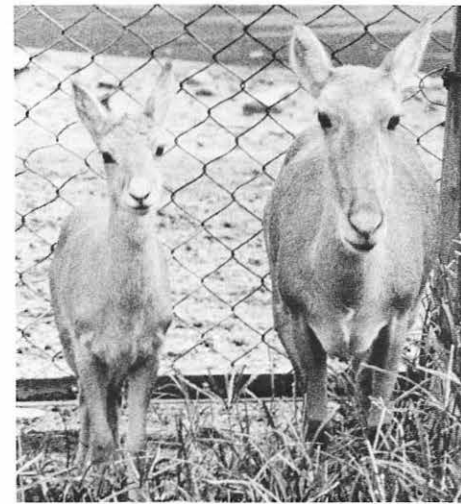
クロオオカミ (オス1頭、メス1頭) 上海動物園  
昭和55年10月入園  
中国東北部に生息  
今年2月に初めてオス3頭、メス5頭の繁殖に成功しました。



ベニジュケイ (オス2羽、メス2羽) 上海動物園  
昭和52年11月入園  
中国四川省などの山地に生息  
昭和54年に初めて繁殖に成功して以来、現在までに20羽のヒナが誕生しています。



コウノトリ (オス1羽、メス1羽) 上海動物園  
昭和58年10月入園  
国東北部に生息  
いコウノトリ舎で来春の繁殖が期待されています。



モウコガゼル (オス1頭メス1頭) 北京動物園  
昭和49年9月入園  
中国東北部及びゴビ砂漠に生息  
昭和52年飼育下で初めて繁殖に成功。  
現在までにオス1頭メス2頭が誕生しています。



フランソワルトン (オス1頭、メス1頭) 上海動物園  
昭和58年10月入園  
中国南部、ベトナム、ラオスに生息  
日本で初めて迎える冬だけに保温に気がついています。木の葉を好むサル仲間です。

## 10・11月の動物園日記

- 10/21. ホッキョクグマの雄“ユキオ”が右足をケガしたので治療をはじめました。保護で元気回復したヤマシギ1羽を放鳥しました。
- 10/22. フランソワルトンの採食は良いようです。
- 10/23. キョンの子が1頭生まれました。
- 10/24. 保護中であったパンを放鳥しました。
- 10/25. パーバリーシープの雄の角が折れてしまいこれでこの雄の角は全くなりませんでした。昭和58年度第2回近畿ブロック動物園技術者研究会が和歌山動物園公園で開かれ、当

- 園からは2名が参加し研究発表しました。
- 10/26. サルアパートの暖房をはじめました。定例飼育研究会が行なわれました。
- 10/27. コビトコブウシの雌が発情しました。
- 10/28. 昨年より隔離し餌付けを行っていた1才になるカリフォルニアアシカの子を親のいるアシカプールの群と同居させました。
- 10/31. ムササビ2頭を一時収容舎より屋外飼育舎へ移し展示を始めました。
- 11/1. 人工哺育中のカリフォルニアアシカの子がミルクを吐くため治療をはじめました。
- 11/2. アナグマの雄を1頭、小獣舎に展示することにしました。

- 11/3. オランウータンの雌“サツキ”のX線による妊娠鑑定を行ないました。オオミズナギドリ1羽を今年はじめて保護しました。
- 11/4. 東京上野動物園の増井光子先生が来園見学されました。オオカミ類およびコヨーテのフィラリア予防のために投薬をはじめました。
- 11/6. 大阪市長選挙啓発模擬投票が当園にて行なわれ、パレードにクロオオカミその他の動物が参加しました。オオサンショウウオの保護依頼が大阪中央郵便局よりありました。

- 11/7. キジ類全羽の寄生虫駆除を行ないました。
- 11/8. クロサイの雄“サイ王”の食欲がないため治療をはじめました。
- 11/9. オオミズナギドリを2羽保護しました。
- 11/10. カバの雌“ナツコ”が牙を一部折りました。
- 11/11. オオミズナギドリを1羽保護しました。
- 11/12. 9日保護のオオミズナギドリを泉南にて放鳥しました。サイ舎の暖房を始めました。
- 11/13. クロエリハクチョウが痛風で死亡しました。トラの子が2頭生まれました。
- 11/15. キングペンギンのヒナの体重測定を行ない7.5kgとわかりました。父親は12kgでした。

外国との動物往来 (2)

今年の8月号に続き、昭和44年以降の外国との動物往来についてご紹介しましょう。

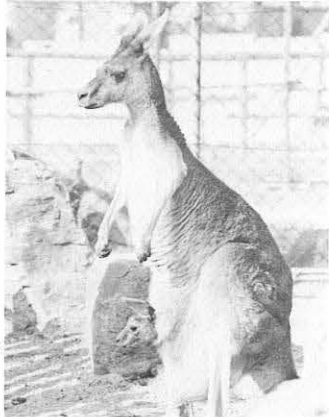
§ 万国博覧会記念動物 昭和44~45年

昭和45年に大阪で万国博覧会が開催されましたが、これを記念して7つの国から親善動物が贈られてきました。

まず万博前の昭和44年10月、西オーストラリア州政府からハイロカンガルーが5頭(オス2、メス3)贈られてきました。

メス3頭の袋の中には赤ちゃんがすでに入っており、一時は8頭もの大家族にふくれあがりました。その後さらに2頭誕生しましたが、当初寄贈を受けた個体は現在すべて亡くなっています。

昭和45年4月、フィリピン館に展示していた木材輸



ハイロカンガルー

出会社からパラワンヤマアラシとパラワンリス各2頭が贈られました。リスは2年半ほどで寿命のためか死亡しましたが、パラワンヤマアラシの方は共に13年以上も飼育され、現在もお1頭が元気です。なおこの種は日本では当園だけの珍しいヤマアラシです。



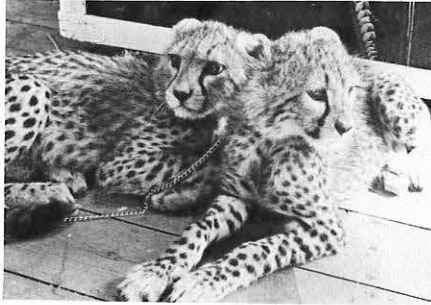
インドゾウの入園

と名付けられたこのインドゾウも入園時はたった260kgという体重でしたが、現在ではもう2620kg(今年5月測定)とちょうど10倍になりました。

同年6月、タンザニア政府からチーター一匹が贈られました。オスは「ウーフル」(自由)、メスは「マエンデレオ」(進歩)と名付けられた子供のチーターでしたが、残念ながら肝硬変とすい臓炎で1年ほどで死亡しました。

同年6月、米国政府からプレイリードッグ10頭が贈られました。何頭か繁殖しましたが寿命の短いこともあって、現在は子孫1頭が生存するのみです。

同年7月、ニュージーランド政府からキウイー一匹が贈られました。日本初渡来の珍鳥だけ



チーター

にその飼育には大いに関心が寄せられました。メスは入園まもなくカビ性肺炎で惜しくも死亡しましたが、オスのニュージー君は担当係員との合唱などおもしろい行動を示し、13年経た現在も元気一杯です。



キウイー

同年9月、エチオピア政府から一匹のライオンが贈られました。アビシニアライオンという亜種が明確なため、従来からいるライオンとは別に収容してきました。このフジオとサクラ夫婦の間には今までに10産20頭近くの赤ちゃんが誕生しています。

§ 昭和45~48年

昭和45年5月、ブラジル・サンパウロ市の新聞社

から姉妹都市・大阪市への親善として、オオオオハシ1羽、フサオマキザル4頭、エメラルドツリーポア2頭が贈られてきました。フサオマキザルは現在までに5頭が誕生しています。

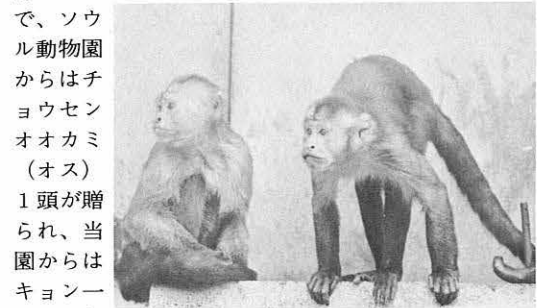
昭和48年4月、米国・サンフランシスコ市から大阪市との姉妹都市提携15周年を記念して、ダマシカ(白色種)一匹が贈られてきました。当初のペアはもう亡くなりましたが、その子孫として現在第三世代目が誕生しています。なお当園からはこの前年にタヌキ一匹が



アビシニアライオン

をサンフランシスコ動物園に贈りました。

昭和48年6月、韓国・ソウル動物園と動物交換を行いました。昭和38、43年に続く3回目の動物交換で、ソウル動物園からは



フサオマキザル

チョウセンオオカミ(オス)1頭が贈られ、当園からはキョーン一匹が贈りました。チョウセンオオカミは昭和43年にメス1頭が贈られており、これでうまくペア形成ができました。昭和40年と50年にこの夫婦の間に日本で初めての赤ちゃんが誕生しましたが、いずれもうまく成育しませんでした。

昭和48年11月にはエチオピアとの親善促進を目的に天然記念物のオナガドリを一匹が贈りました。

§ 日中国交回復記念動物 昭和49年

この年、日本と中国の国交が回復し、その記念動物交換が行われました。

7月に北京動物園へ日中友好の親善動物使節としてアカカンガルー一匹が、ルリコンゴウインコ4羽を贈り、そのお返しに北京動物園からモウコガゼル一匹が、タンチョウ(メス)1羽が贈られてきました。モウコガゼルは日本初お目見えの珍しいカモシカで、昭和52年に飼育下では世界で初めてと思われる繁殖に成功しました。以後オス1、メス2頭が繁殖しました。タンチョウのメスは当園のオスに嫁入りし、昭和51年に1羽ふ化して以来、7年連続して計13羽の繁殖に成功しました。まさに日中友好を記念する二世の誕生でした。

また上海市とは友好都市提携を記念して、8月に上海動物園からクロオオカミとマナヅル各一匹が贈られてきました。マナヅルは一昨年から産卵をしていますが、無精卵のためかまだ繁殖までにはいたってはいません。当園からはアシカー一匹とファンボルトペンギン4羽を贈りました。

(P 4~5「動物園グラフ」参照)

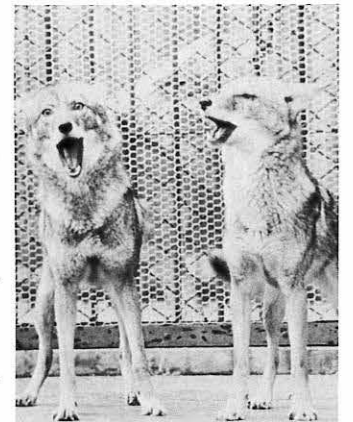


チョウセンオオカミ

§ 開園60周年記念動物 昭和50年

この年、開園60周年を記念して3つの動物園と記念動物交換を行いました。

まず米国サンディエゴ動物園からは2月にシンリンオオカミ、10月にコヨーテ各一匹が贈られてきました。シンリンオオカミはまだ繁殖をみないもののコヨーテは4回計17頭出産しています。当園からはこのお返しに翌年タヌキを二匹が贈りました。



コヨーテ



カナダヤマアラシ

10月には米国リンカーンパーク動物園からカナダヤマアラシ一匹が贈られてきました。当園に初お目見えのこのヤマアラシは子宝に恵まれないまま、6年後に亡くなりました。なお当園からはニホンザル一匹が贈りました。

11月には韓国・ソウル動物園から

チョウセンヤマネコ一匹が、ワシミミズク4羽が贈られてきました。ソウル動物園とはこれが4度目の動物交換で、当園からはシュバシコウ二匹が贈りました。ワシミミズクは昭和53年と54年に計5羽繁殖しました。

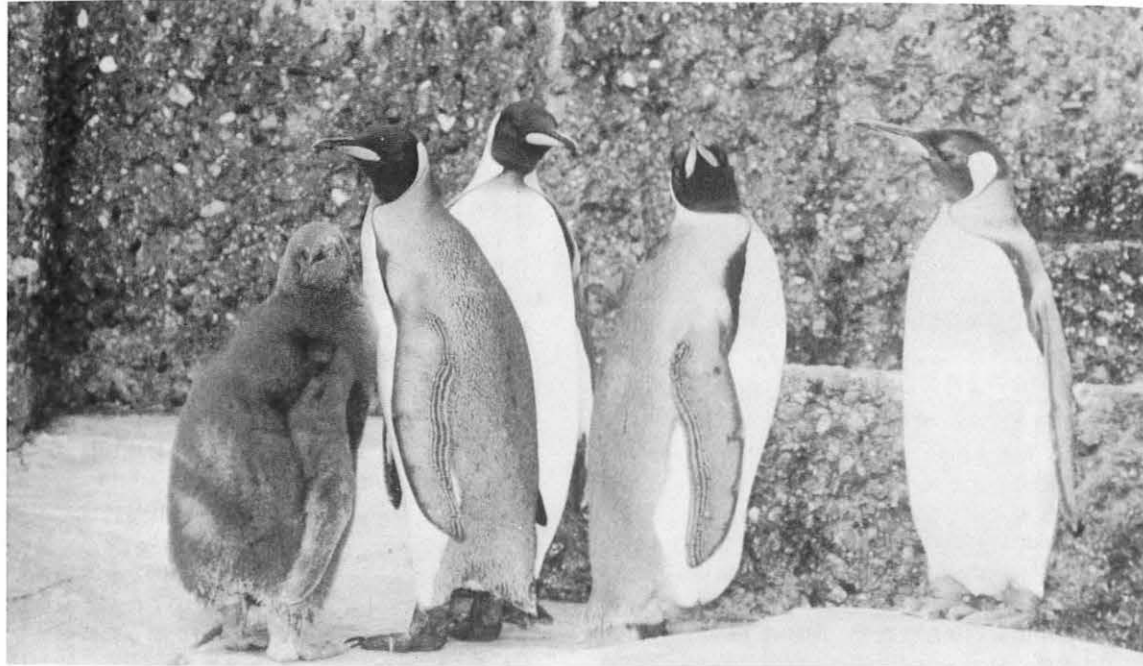
(つづく)



ワシミミズク

(飼育課：宮下 実)

キングペンギン (下)



他のキングペンギンと一緒に記念撮影

§ ヒナ誕生

8月30日、午後4時10分、キングペンギン担当の仲谷係員が戸惑ったような表情で事務所に入ってきました。彼の手には卵の殻のカケラが握られていました。それを見て私は大きな溜息が出ました。仲谷君が殻のカケラを持っているということは卵がかえったか、あるいは割れてしまったかのどちらかです。しかし、この朝の巡回で抱卵するキングペンギンを観察している時、チラッと見えた卵が黒く汚れていたのです。普通、孵化する卵は汚れはなくきれいなもので、逆に孵化しない卵は汚れているものです。ですから朝、卵が見えた時、今年もダメかなと落胆していたところだったのです。しかし、まだ卵が割れてしまったとは断定できません。ひょっとしたら孵化したのかもしれないヨ、と自分自身をなぐさめるように仲谷君に言いました。

仲谷君が事務所を出て行って約1時間半後、彼は今度は息を切らして動物病院に飛び込んで来ました。彼の眼はキラキラと輝いていました。

「かえりました。ピーピー鳴く声が聞えました！」彼はそれだけ言ってハアハアと肩で息をしていました。

§ 難しいヒナの誕生

キングペンギンは現在、国内では8園で35羽が飼

われています。しかし、その繁殖は難しく、全国でもまだ9羽しか成育していません。天王寺でも14年前に1羽のヒナが育ちましたが、その後、そのヒナは死んでしまい両親も死んでしまっ繁殖はストップしていました。

今回のヒナの両親は父親がキンちゃん、母親はミドリサンですが、キンちゃんは2年前の昭和56年4月30日に、ミドリサンは55年の2月にそれぞれ入園して来ました。2羽はすぐ仲良くなり期待していたところ、昨年7月待望の産卵がみられました。しかし大変残念なことに、初めての抱卵で不慣れなためか1ヶ月後卵を



キンちゃん(左)、ミドリサン(右)に見守られて (孵化後16日目)

割ってしまい、飼育係一同とても落胆したものでした。

今年も7月が巡って来、親の食欲がかんばしくありませんでした。これは産卵の前触です。今か今かと産卵を待つうち、7月7日とうとう待望の卵が産



まれました。先月お話ししたように卵は両親が交代で下腹部の皮膚で卵を包み大事に抱卵していました。

野生では産卵直後はオスが絶食状態で約2週間抱卵し、その後交代して抱卵することが知られていますが、

随分しっかりと立てるようになりました。今回の場合は、メスのミドリサンが産卵後3日間抱卵し、次の17日間キンちゃんが抱卵するといった変則した抱卵の仕方

§ ヒナの成育

翌日の8月31日、長い間親とヒナを観察し続けたのですが、鳴き声は聞こえたり、ヒナの嘴は見えたりするものの、肝心の親からヒナへの給餌は見られませんでした。またキンちゃんがエサのアジを5尾食べた

だけでそばに付き添うミドリサンは絶食でした。だいぶ心配したのですが、翌9月1日午前9時54分、はじめて給餌が確認されました。ヒナはキンちゃんの嘴の中へ頭を突っ込み吐き戻されるエサをゴクゴクンと飲み下したのです。その後は順調に給餌が確認されました。このころのヒナは1日中寝てばかりで、給餌の時立ち上るだけです。給餌はミドリサンもしていたのですが、記録によるとここ数日まったくの絶食状態です。何日も何も食べないでいて何を吐き戻してヒナに与えるのでしょうか。不思議なことです。

ヒナは順調に育ちました。面白いことに孵化後1週間目位からヒナがピーピーと鳴いてエサをねだると両親以外の3羽のペンギンも刺激されるらしく、エサを吐き戻しはじめたのです。そして孵化後21日

目にヒナが親以外のペンギンから給餌を受けるのが



丸々と太った灰色の毛玉。体重は7.5kgでした。(孵化後77日目)

観察されました。また26日目には以前からヒナに異常に関心を示していた黒い翼帯を付けたキングペンギンがとうとうヒナを両親から奪って抱き始めました。これには驚きヒナをすぐ両親に戻したのですが、その後も10数回、この黒は両親からヒナを奪って抱いていました。

こんなことがあったもののヒナの成長は極めて順調で、孵化後1ヶ月目頃には大きくなり過ぎて両親のお腹には頭しか入らなくなる程に成長しました。

そして11月2日、孵化後63日目、夏用の冷房舎から屋外の放飼場にペンギン一家を移動させました。



両親と一緒に。

ヒナは初めて触れる外の世界に少し戸惑い気味でしたが、すぐ慣れたようでした。

孵化して2ヶ月半、体は随分と大きくなりましたが、仕草はまだまだ赤ん坊です。皆さんも早く動物園に来てこの大きな灰色の毛玉のような赤ちゃんペンギンを見てやって下さい。

(長瀬 健二郎：飼育課・獣医師)

動物園の動物達は冬の間どんな暖房をしているのですか？

吹田市江坂町 亀田裕子

動物園の動物には冬の間、暖房してあげなければならぬ暖かい国からの動物達がたくさんいます。そんな動物達にとっては、日本の冬はとってもきびしいようです。サル仲間では、寝室に赤外線ランプを取り付け、敷きワラもいれてやります。長いしっぽをもっているサルは、凍傷にかかることがあります。チンパンジーなどの類人猿では、寝台の下にスチームが入っています。しかし、ゴリラは乾燥に弱いのでノドをやられたり、アカギレがひどくなるので加湿もしています。アフリカ産のカモシカやダチョウでは寝室にシキワラを多くいれるだけです。また小型の動物では、パネルヒーターを使用したりもします。なんといっても一番の寒がりには、ワニやヘビの爬虫類達です。冬の間、26℃~30℃位の温度を保つため、建物全体をスチームで暖房をしています。おかげで担当者は、真冬でもシャツ一枚で仕事がで



きる程です。でも外が寒いので油断をするとカゼをひきやすく、十分注意しなければなりません。爬虫類以外の動物では、どんなに寒い雪の舞うような日でも外に出し、運動をさせ、日光浴などをさせる方が、動物にとっては体にいいようです。しかし寒さに強い動物でも、北風をふせいだり、寝室にスキ間風がはいらぬようにしたりして、防寒をしています。

(回答:大野尊信)  
(イラスト:松山浩美)

天王寺動物園のような都会の真中でも野鳥がとんでくることがあるのですか。

大阪市淀川区東三国小学校 市川靖子

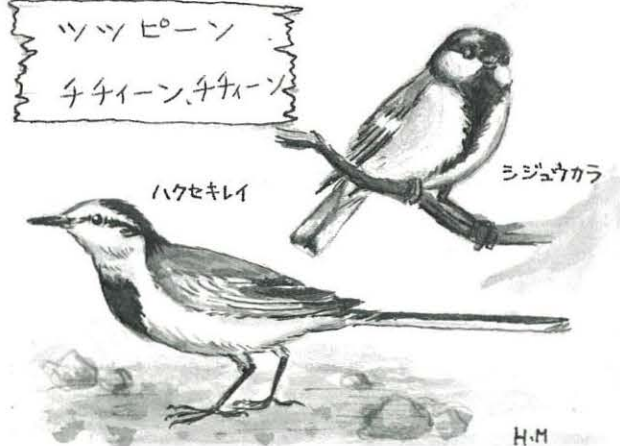
公園や動物園の緑は、木々の少ない都会では鳥たちのオアシスとなっており、意外と多くの野鳥がいるものです。ちなみに、1881年には一年で、33種、

1982年には35種の野鳥が園内で記録されています。

園内で記録される野鳥をデータを元に季節別に色分けするとキジバト、ヒヨドリ、スズメ、ムクドリのように一年中園内でみられるもの、夏にだけ見られるツバメ、冬にだけ見られるカルガモ、ハクセキレイ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、シメ、イカルなどで春秋の渡りの時期にのみ見られるものでも、春には、オオルリ、キビタキなどがよく見られ、秋には、コサメビタキやエゾビタキなどのヒタキ類がよく見られます。

ちょっと気をつけて見ると身近にも、スズメやドバト以外の野鳥が、意外と多く生活しているものです。これからはそのつもりで公園や動物園を見て下さい。

(回答:榊原安昭)  
(イラスト:松山浩美)



表紙

写真撮影

イノシシ (1月号) 土井良彦	キーウイ (7月号) 長瀬健二郎
コブハクチョウ (2月号) 柴田 総	ホッキョクグマ (8月号) 農本武志
アオエリルリサンジャク (3月号) 長瀬健二郎	インドトサカゲリ (9月号) 野口秀高
タンチョウ (4月号) 農本武志	キュウカンチョウ (10月号) 長瀬健二郎
ムナグロ (5月号) 榊原安昭	ニホンジカ (11月号) 柴田 総
オーストラリアヒクイドリ (6月号) 大野尊信	フラミンゴ (12月号) 森本委利

動物と私 (動物園長さんシリーズ) P2 (4月号のみP4)

東京動物園協会理事長 (1月号) 古賀忠道	神戸市立王子動物園長 (8月号) 福岡順三
上野動物園長 (2月号) 浅倉繁春	アドベンチャーワールド名誉園長 (9月号) 山本鎮郎
埼玉県立こども動物自然公園園長 (3月号) 遠藤悟朗	みさき公園自然動物園長 (10月号) 永田新吾
横浜市金沢自然公園分園長 (4月号) 堀 浩	姫路市立動物園長 (11月号) 小林肇男
福岡市動植物園動物園長 (5月号) 伊藤達也	江ノ島水族館長 (12月号) 広崎芳次
釧路市動物園長 (6月号) 渡辺徳介	

お目見え動物

P3 (4月号のみP5)

写真撮影

袋の中からコンニチハ (1月号) 野口秀高	トキイロコンドルお目見え (7月号) 農本武志
やって来た幼い花嫁さん (2月号) 中川哲男	クロサイの赤ちゃん誕生 (8月号) 宮下 実
リュウキュウイノシシお目見え (3月号) 宮下 実	ニホンジカの子供達 (9月号) 長瀬健二郎
すくすく育つクロオオカミの赤ちゃん (4月号) 榊原安昭	こんなに大きくなりました (10月号) 中川哲男
ジャガーが入園しました (5月号) 長瀬健二郎	上海から“ニーハオ” (11月号) 榊原安昭
袋の中からこんには (6月号) 森本委利	カバの赤ちゃんお目見え (12月号) 宮下 実

動物園グラフ

P4・5 (4月号のみP6・7)

写真撮影

イノシシのおもちゃ展 (1月号) 吉田平七郎	キーウイの人工餌 (7月号) 榊原安昭・土井良彦 長瀬健二郎・森本委利
夜の動物園 (2月号) 大野尊信 宮下 実	さて何ができるかなあ (8月号) 榊原安昭 農本武志
繁殖賞動物 ③ (3月号) 長瀬健二郎	赤ちゃん特集 (9月号) 森本委利
クジャクのディスプレイ (4月号) 宮下 実	世界のコアラ (10月号) 宮下 実
鳥の保護から復帰 (5月号) 森本委利	なかよし (11月号) 長瀬健二郎
すくすく育つクロオオカミの赤ちゃん (6月号) 野口秀高 榊原安昭	ボク達、動物大使 (12月号) 大野尊信

## 特別寄稿

猪の話題 (1月号) 6~7P 吉田平七郎	動物の親善大使 (4月号) 2~3P 大島 靖
イノシシ年を迎えて (1月号) 8~9P 朝日 稔	南港の鳥 (5月号) 6~7P 広田博厚

## 連載記事

天王寺の動物たち ③④ (2月号) 6~7P 長瀬健二郎	獣医室から ③② (1月号) 10P 宮下 実
〃 ③⑤ (4月号) 8~9P 〃	キーパーズ・アイ ②⑥ (2月号) 〃 葭谷文彦守
〃 ③⑥ (6月号) 6~7P 〃	〃 ②⑦ (4月号) 〃 葭谷文彦信
〃 ③⑦ (8月号) 〃 〃	〃 ②⑧ (7月号) 〃 農本武志
〃 ③⑧ (12月号) 〃 〃	〃 ②⑨ (10月号) 〃 早川篤高
天王寺の歴史をさぐる ② (3月号) 〃 〃	動物なんでも相談室 ② (3月号) 〃 大野尊信
〃 ③ (8月号) 8~9P 宮下 実	〃 ③ (5月号) 〃 大野尊信
〃 ④ (12月号) 〃 〃	〃 ④ (9月号) 〃 仲谷登男
	〃 ⑤ (12月号) 〃 大野尊信

## 飼育観察記事

ニュージーと3羽のヒナたち (3月号) 8~9P 磯田啓子	ハ虫類館に飼育される動物たち (11月号) 8~10P 葭谷文彦
クロオオカミの人工哺育記録 (6月号) 8~10P 丸本 守	

## 自然保護関係記事

危機に瀕する大阪の野生ジカ (2月号) 8~9P 大野尊信	野鳥の保護について (5月号) 8~9P 森本委利
-------------------------------	---------------------------

## 動物園紀行・随筆・その他

37年をふりかえって (4月号) 10~11P 中尾磯吉	私が望む動物園 (8月号) 10P 島本直之
キーウィと共に (7月号) 6~7P 磯田啓子	第9回サマースクール感想文 (9月号) 6~7P 北根広子
キーウィのふるさとニュージーランドを訪ねて (7月号) 8~9P 宮下 実	アメリカの動物園をたずねて① (9月号) 8~9P 農本武志
オーストラリアのコアラ事情 (10月号) 6~7P 宮下 実	〃 ② (10月号) 〃 〃
	〃 ③ (11月号) 〃 〃

## 動物園日記

P4・5 (4月号のみP6・7)  
1~12月号 森本委利

## 動物園ニュース

P11 (4月号のみP13)  
1~12月号 榊原安昭

## 動物園ニュース

### § ペンギン屋外へ移動

11月2日、冷房ペンギン室から、キングペンギンをはじめ3種12羽のペンギンが屋外へ移動しました。例年10月初めには、屋外へ展示するのですが、今年は8月にキングペンギンがふ化したため、移動が約1ヶ月遅れました。



キングペンギンのヒナも、もうすっかり大きくなり、黒い羽毛に包まれ、丸々と太っています。初めて見る外の世界ですが、驚いた様子もなく親の後をよちよちと歩き、入園者の人気を集めています。11月15日に体重測定したところ、7.5kgと雄親の12kgの半分以上にまで成長していました。

### § トラの赤ちゃん誕生

11月13日、トラの赤ちゃんが2頭生まれました。母親は1973年1月に当園で生まれたもので、15産目で今回の2頭も加えて52頭を出産したことになります。最近あまり子供をうまく



育てないので、人工哺育することが多く、今回も5月に続き今年2回目の人工哺育をすることになりました。性別は雄、雌で現在のところ、1日平均1頭500ccのミルクを飲んでおり、順調に成育しています。

### § オオミズナギドリ保護

オオミズナギドリは、日本近海などで夏繁殖し、冬にはマレー諸島からオーストラリア北岸まで渡る外洋性の海鳥です。

毎年、秋の渡りの時期の10月から11月には、各地で落下し動物園へ保護されてきます。今年は例年になく多いようで、11月3日に松原市で保護されたものを皮切りに11月19日までに8羽が保護されてきました。すでに死亡したものもありますが、3羽は元気を回復し、自然復帰させることができました。

### 現在の飼育動物数

(1983年10月31日現在)

哺乳類	8目	98種	346点
鳥類	20目	202種	706点
爬虫類	3目	40種	89点
計	31目	340種	1,141点

### § 秋の動物園まつり終了する

恒例の秋の動物園まつりが、10月10日から11月3日までの日曜、祝日に開催されました。期間中ステージでは、奈良の佐保女子短期大学の学生さんによる人形劇や、淀川区のめぐみ幼稚園のみなさんによるお遊戯などが行なわれ、事務所前では当園獣医師による動物相談が行なわれました。展示館では第2回動物園職員写真コンクール優秀作品展が行なわれました。

また、大阪動物園ボランティアーズは、紙しばいでステージから、動物に餌を与えないように呼びかけたり、ゴリラ舎やサイ舎など園内5ヶ所でスポットガイドを行ない好評のうちに終了しました。

### § 爬虫舎前に休憩所完成

今夏の園内整備事業の1つとして爬虫舎前に円形の休憩所を建設しましたが、このたび八角形のベン



チと花壇も完成しました。花壇は四季折々の花と藤を配した素敵なお庭ですので、

休憩に御利用下さい。

### ◎ お知らせ

#### キジ舎新築工事

12月初旬より新しいキジ舎の建設工事が始まります。これは従来のキジ舎が老朽化したため新築されることになったものです。来年3月まで、キジ類はお目見えできませんので御了承下さい。

#### エトのおもちゃ展

恒例の“エトのおもちゃ展”が1月2日から1月31日まで開催されます。寝屋川市在住の吉田平七郎氏提供の日本のネズミのおもちゃ200点、世界10ヶ国50点のネズミのおもちゃを展示しますので、ぜひご覧下さい。

### \* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。来年2月までの休園日は下記のとおりです。  
12月19日(月)、1月17日(火)、2月20日(月)。  
年末年始は、12月29日~1月1日まで休園いたします。開園時間は、午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

# すてき満喫

## 近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

**近鉄百貨店**

お申込み・お問合せは各店クレジットセンター  
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平  
指導・宮武頼夫

●オールカラー

# むし

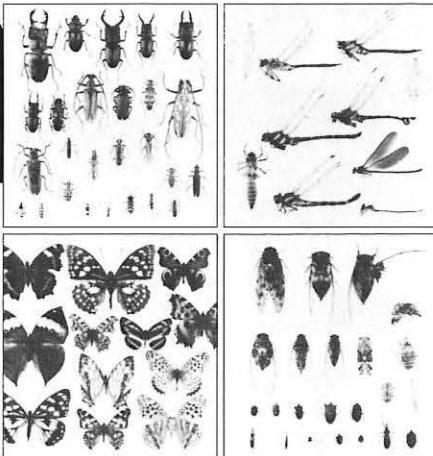
くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。き・とすはらしいことに出会えるはずだ。

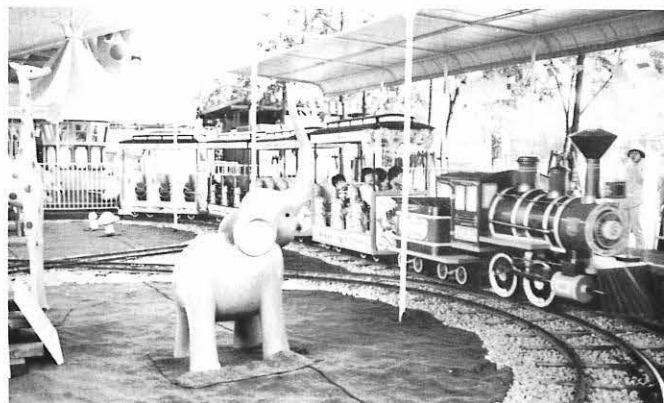


B5変形  
84ページ 580円

ひかりのくに株式会社  
〒542 大阪市天王寺区上本町3-2



## たのしいのりもの、が待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりもの、があります。

## 天王寺動物園の機関紙

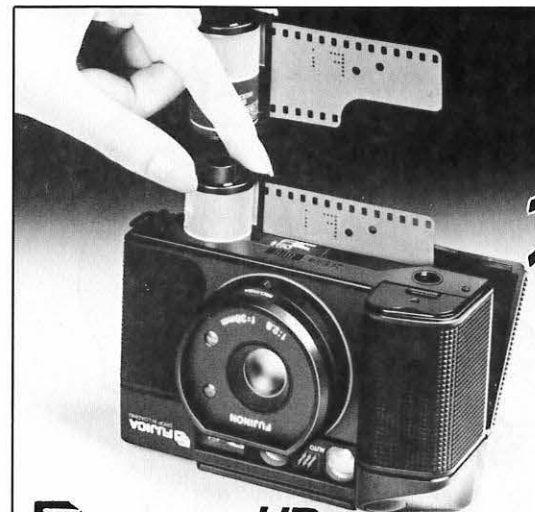
月刊 **なきごえ**

ご購読をお奨めします。

年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ

TEL 06-771-0201



# フィルムポン!

世界で初めて「ドロップイン機構」を搭載!  
フィルム装てんが新しくなった—フジカ  
オートエース&オートメイト新登場!。

—FUJICA—  
オートエース  
DL-100 DATE  
標準価格49,800円

## かたらの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

## ◎ 動物のことなら あらゆることにお役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写真会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

自然から学ぶおもいやり

株式  
会社

# アニマ

(いきもの110ばん)

☎ 06-863-1025 (代表)

〒561 豊中市利倉2丁目22-2



全国の愛犬家の共感を呼ぶ  
無比の愛犬歌集

# 歌集 犬の歌

動物文学会主宰  
平岩米吉著

(天金美装・箱入  
B 6判・270頁  
2500円・千不要  
(直接申込乞う)

著者が、約40年の間に、共に暮らした70余頭の犬の生と死を歌った419首を取録。同時に、その誕生より老齢に至る写真47図を取め、犬の一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2  
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定  
全国学校図書館選定

# 狼

その生態と歴史  
犬科生態研究所長  
平岩米吉著

A 5判・320頁・  
口絵挿絵等140図  
定価2800円・千300円

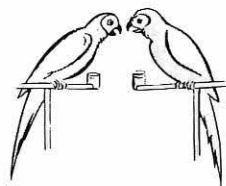
待望の日本狼の正史ついに完成!

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著者が、数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の目をもって描いた空前の書。  
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

## 主な目次

序 狼への幻想と現実	5 狼の伝説
1 犬科の分類と解説	6 日本狼の特徴
2 犬と狼の関係	7 日本狼の絶滅
3 日本狼の歴史	終 狼を飼った人々
4 狼狩の記録	

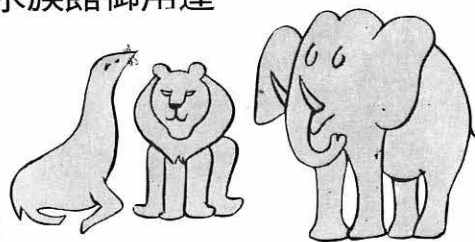
発売 株池田書店 東京都新宿区弁天町43番地  
振替・東京4-165425



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

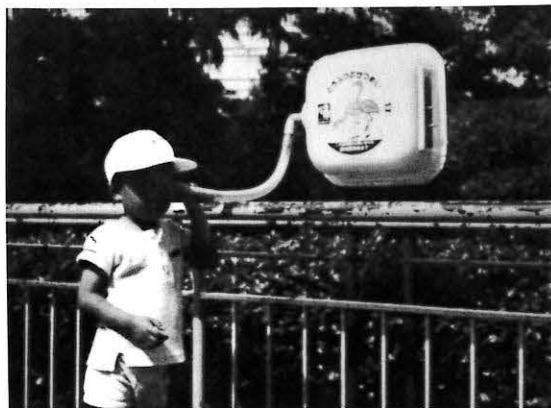
- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517  
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

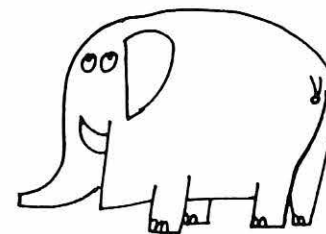
たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

1回 20円

## 天王寺動物園内



## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話(06)771-7110番

園内でのお写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願ひ致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト  
の名コンビ

自然の  
おいしさ



# 雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和58年12月15日発行(毎月1回15日発行)

第19巻 第12号 (通巻220号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員 (土井 良彦・伊東 重朗・小出 雅三・樽本 勲・中川 哲男・前田 豊彦)  
(宮下 実・長瀬健二郎・榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦)  
(農本 武志・野口 秀高・仲谷 登・柴田 総・兼坂 雅浩・堀 弘)